

肥料高が食料危機に波及 価格2倍超、侵攻で供給停滞 収穫減り新興国に打撃

世界的な肥料価格の高騰が深刻になっている。ウクライナ侵攻で制裁を受けた主産国ロシアやベラルーシからの供給が停滞しているため、代表的な価格指数は1年で2倍超に上がった。穀物など世界の食料生産に影響が出ており、食料価格を押し上げている。新興国を中心に広がる食料危機が一段と深刻になりかねない情勢だ。

世界銀行が算出する肥料価格の指数（2010年=100）は3月に237.6と前年同月の2.3倍に急騰し、08年以来、14年ぶりの高値を記録した。主要品種の塩化カリは同月に1トン562ドルと前年の2.8倍まで上がり、主要肥料の中で最も高い上昇率を示した。尿素も2.6倍の907ドル台で取引された。

ロシア発の供給不安が直撃している。肥料の三要素の一つであるカリはロシアとベラルーシの生産が3割以上を占める。ウクライナ侵攻を受けた経済制裁で両国から西側諸国への輸出が減少。日本もロシア産の塩化カリの輸入を停止した。ベラルーシ産も他産地への切り替えが進み、世界で需給が逼迫しつつある。肥料原料となるアンモニアもロシア産が世界輸出の1割程度を占めたが、侵攻後はウクライナにある拠点港からの輸出が停止し、品薄感が強まった。原料となる天然ガスの高騰もアンモニア価格を押し上げた。消費国の代替調達にも限界がある。尿素肥料の主要輸出国である中国は国内価格の上昇を受けて輸出を制限している。3月の輸出量は前年同月比で8割減少した。

肥料高は穀物の供給減少と価格上昇に直結する。米農務省が3月末に発表した農家の作付け意向調査によると、肥料を相対的に多く使うトウモロコシの作付け面積は4%減の見通し。供給懸念からトウモロコシの国際価格は10年ぶりの高値圏で推移する。

途上国や新興国の打撃は大きい。国際肥料開発センター（IFDC）は、アフリカ（サハラ砂漠以南）の肥料使用量はすでに3割減少したとみている。その影響で1億人分の食料に相当する3000万トンの生産が落ち込み、不足分を補うために輸入を増やす可能性が指摘される。

米ブルームバーグ通信によると、フィリピンにあるコメ関連の国際的な研究機関である国際稲研究所（IRRI）は、アジアで肥料の使用が減ることによって収穫量が1割減少するとの見通しを示す。米調査会社S&Pグローバルは、農業大国のインドで肥料価格が上昇すると豆類や油糧種子の作付けが減る恐れがあると指摘した。

世界銀行は「次のシーズンの食料生産に影響するため、肥料価格の高騰は食料安全保障を脅かす」と警告する。ブルームバーグ通信によるとペルーでは18万トンの尿素が不足。主食となる食べ物の生産が4割落ち込む可能性もあるという。

ロイター通信はインドやブラジルなど世界各地の小規模農家は欠品などで肥料を手に入れられない状況に陥っていると報じた。作付けしても施肥できないため、食料生産が落ち込みかねない。

すでに食料危機に陥っている地域もある。国際通貨基金（IMF）は28日のレポートで「アフリカ（サハラ砂漠以南）地域の食料価格が急速に上昇している」と指摘した。燃料に加え肥料高で国内の食料生産に影響が出ている。特に都市部の貧困層への影響は甚大だ。

ウクライナ、穀物2500万トン輸出できず ロシアの封鎖・破壊で 年間輸出量の半分

国連食糧農業機関（FAO）は6日、ロシア軍の侵攻が続くウクライナで約2500万トンの穀物が輸出できない状況になっていることを明らかにした。黒海の港の封鎖やインフラの欠如が要因としている。農業大国であるウクライナからの供給停止は、世界の食料安全保障を脅かしている。

FAOで市場や貿易部門を担当するジョセフ・シュミットフーバ氏は記者会見で「輸出できるはずの約2500万トンの穀物が、インフラの欠如と港の封鎖のために輸出できていない」と述べた。ウクライナメディアによると、同国の2019～20年シーズンの穀物輸出量は5700万トンで、年間輸出量の半分近くが国内に残った状況だ。戦闘が起きているにもかかわらず、収穫そのものは「それほど悪化していないようだ」とも話した。

ロシア軍の攻撃によって穀物の貯蔵庫が破壊されたとも伝えられている。シュミットフーバ氏は輸出が再開できなければ、夏の収穫期に貯蔵能力が不足する可能性があるとして指摘した。ウクライナはロシアとあわせると小麦の世界輸出の3割、トウモロコシの2割を占め、戦闘による供給への影響は多大だ。

FAOが6日発表した4月の世界の食料価格指数（14～16年=100）は158.5と前月から1.2ポイント下落した。植物油などの価格が下落したことが要因だが、水準自体はなお高い。ウクライナ侵攻の長期化でさらなる上昇への懸念は強い。

食料価格の高騰は、特に途上国の貧困に拍車をかける恐れがある。FAOは指数のわずかな下落を歓迎しつつも「市場は逼迫が続いており、最も弱い人々の食料確保に課題を突きつけている」と述べた。世界最大の小麦輸入国であるエジプトは価格の高騰に苦慮し、パンの価格統制に追われている。



FAOは小麦など穀物の貯蔵庫が不足する恐れも指摘した（3月、ウクライナ西部）=AP

石油製品に値上げ圧力

輸入原油価格の高止まりを受け、原油から精製する石油製品も値上げ圧力が一段と強まる。石油元売り大手のENEOSは電力会社が発電用に使う低硫黄C重油（硫黄分0.3%）の4～6月期価格を1キロリットル10万4050円とし、前期（1～3月）に比べ2万6180円（3割強）引き上げると提示した。値上げで決まれば6四半期連続となる。

産業用ボイラー燃料に使う高硫黄C重油（硫黄分3.0%）も同2万5100円高い1キロリットル9万3210円とする。ENEOSはいずれも6月末までの決着を目指し、需要家との交渉を進める。

燃料商社の兼松ペトロ（東京・千代田）は4～6月期の内航船向け燃料価格の引き上げを提示。国際海事機関（IMO）の新規制に対応した硫黄分0.5%以下の「適合油」の参考仮価格は、1キロリットル10万4200円と前期比1万9900円（2割強）高い。新型コロナウイルス禍で停滞していた輸送需要は上向いており、今後の原油価格もみなながら海運会社と交渉する。

資材値上げ相次ぐ

資材値上げ相次ぐ

インキの価格を
6月出荷分から

DICグラフィックス

DICグラフィックス

（本社・東京都中央区、甲斐敏幸社長）は6

月1日出荷分から、商業

オフセット用印刷インキ

インキ、UVインキ、新

聞インキの価格改定を行

う。

対象製品は、昨年10月

に原料および物流費の高

騰、需要減などの理由に

より価格改定を実施して

いるが、世界経済の回復

にともなう需給バランス

の悪化により、その後も

オフセット用印刷インキ

の主原料である顔料、樹

脂、溶剤、光重合開始剤

などの価格が上昇し続け

ている。

加えて、昨今の世界情

勢にともなうサプライチ

ェーンの混乱などによっ

て、容器をはじめとする

副資材や物流費、さらに

はエネルギーコストなど

も高騰し続けて収束がみ

られない状況となってい

る。

同社では今後の事業継

続および安定供給を図る

ために価格改定すること

を決めた。

5月からインク
ジェットインキ

トーヨーカラー

トーヨーカラー（本

社東京都中央区、岡市秀

樹社長）は5月1日出荷

分から、インクジェット

インキ製品について価格

改定した。

価格改定の背景には、

をを決めた。

価格改定幅は次のとお

り。

▽商業オフセットインキII

40円/キタ以上

▽油性枚葉インキII 60

円/キタ以上

▽UVインキII 100

円/キタ以上

▽新聞インキII 60円/

キタ以上

※金銀インキ・特別対

応品・特殊品（特殊容器

を含む）などの一部製品

についてはこれらの改定

幅と異なる。

添加剤の価格が高騰を続

けていることが挙げられ

る。また、物流費・光熱

費・副資材の価格につい

ても上昇が続ぎ、収束が

みられない状況となつて

いることも一因となつて

いる。

価格改定の対象製品は

インクジェットインキと

インクジェットインキ関

連製品（洗浄液、アンカ

ーコート剤など）で、価

格改定幅は200〜40

0円/キタである。

ウメト インフォメーション

2022年5月9日

担当 坂田

2022年3月 紙・板紙需給速報 1/2

<単月>

月	品名	生産		出荷計					在庫		(参考)輸入*			
		前年比	前年比	国内出荷		輸出	前月比増減	前年比						
				前年比	20年比				前年比					
3月	紙・板紙計	2,156	+0.8	2,269	+3.7	2,031	+1.7	+1.0	238	+24.8	1,892	▲113	82	▲4.5
	紙計	1,030	▲1.0	1,103	+2.5	1,003	+1.7	▲4.2	101	+11.5	1,114	▲73	56	▲13.9
	新聞用紙	156	▲3.8	175	▲7.4	175	▲7.4	▲9.2			157	▲19		▲100.0
	印刷・情報用紙	559	▲3.4	605	+3.8	535	+1.9	▲1.8	70	+21.0	689	▲46	52	▲15.1
	非塗工紙	134	▲10.8	150	▲2.5	139	▲2.8	▲7.5	11	+1.2	219	▲16	1	▲41.7
	塗工紙	331	+2.9	345	+9.8	290	+7.0	+3.8	55	+27.5	347	▲15	11	▲53.0
	情報用紙	94	▲12.0	109	▲4.4	106	▲4.5	▲7.8	3	+1.2	123	▲15	40	+11.6
	包装用紙	78	+8.5	87	+11.0	67	+13.3	+12.8	20	+3.7	90	▲9	1	+79.2
	衛生用紙	172	+6.8	172	+7.8	172	+7.9	▲9.4	0	▲100.0	80	▲0	2	▲5.3
	板紙計	1,126	+2.6	1,166	+4.9	1,029	+1.7	+6.6	137	+36.8	778	▲40	25	+26.3
	段ボール原紙	922	+1.4	955	+3.5	828	+0.1	+5.6	127	+34.0	563	▲33	4	+106.3
	白板紙	137	+11.9	142	+15.0	132	+11.7	+13.3	10	+81.7	135	▲5	20	+20.8
	グラフィック用紙	715	▲3.5	780	+1.1	710	▲0.6	▲3.7	70	+21.0	846	▲65	52	▲15.3
	パッケージング用紙	1,269	+2.7	1,318	+4.8	1,149	+2.3	+6.0	169	+26.6	966	▲48	27	+26.0

<累計>

(参考)	品名	前年比	前年比	前年比	前年比	20年比	前年比	前年比	前月比増減	前年比				
	紙・板紙計	5,991	+1.3	6,046	+2.6	5,491	+1.9	▲1.5	555	+10.3	1,892	▲113	168	+8.0
	紙計	2,913	▲0.1	2,993	+1.9	2,755	+1.6	▲6.2	238	+5.5	1,114	▲73	119	+0.4
	新聞用紙	475	▲2.5	479	▲5.0	479	▲5.0	▲14.3			157	▲19	0	▲80.6
	印刷・情報用紙	1,571	▲0.7	1,641	+3.3	1,479	+1.8	▲5.2	162	+19.1	689	▲46	111	▲0.3
	非塗工紙	400	▲8.1	427	▲1.2	398	▲1.6	▲6.6	29	+5.3	219	▲16	4	▲18.7
	塗工紙	898	+5.2	920	+8.1	795	+6.0	▲2.8	125	+24.2	347	▲15	30	▲28.0
	情報用紙	274	▲7.1	294	▲4.0	286	▲4.1	▲9.7	8	+2.0	123	▲15	77	+19.0
	包装用紙	213	+2.3	224	+4.2	177	+9.6	+4.3	47	▲12.1	90	▲9	2	+92.4
	衛生用紙	467	+3.3	469	+6.2	469	+6.3	▲1.9	0	▲92.3	80	▲0	4	▲6.1
	板紙計	3,078	+2.6	3,053	+3.3	2,736	+2.2	+3.7	317	+14.2	778	▲40	49	+32.9
	段ボール原紙	2,525	+1.8	2,498	+2.5	2,203	+1.3	+4.0	295	+11.9	563	▲33	8	+91.3
	白板紙	368	+9.4	368	+8.7	346	+6.6	+4.2	22	+59.2	135	▲5	40	+26.1
	グラフィック用紙	2,046	▲1.2	2,120	+1.3	1,958	+0.0	▲7.6	162	+19.1	846	▲65	111	▲0.6
	パッケージング用紙	3,477	+2.5	3,457	+3.0	3,064	+2.5	+2.9	393	+7.2	966	▲48	53	+33.5

- (注) 1. 国内工場の生産高・出荷高・在庫高による。
 2. 紙計は「その他の紙」、板紙計は「白板紙以外の紙器用板紙」、「その他の板紙」を含む。
 3. 在庫の前月比増減は数量(千トン)表示。
 4. 輸入*は2月

日本製紙連合会の2022年3月の紙・板紙需給速報によると、国内出荷は前年同月比1・7%増で5カ月連続のプラスとなった。グラフィック用紙は0・6%減で2カ月連続のマイナス。パッケージング用紙は2・3%増で、13カ月連続のプラスである。主要品種は新聞用紙、非塗工紙、情報用紙を除きプラス。

製紙連合会

5カ月連続で増加

3月の紙・板紙国内出荷

出は3・7%増で7カ月ぶりのプラス。

増加。パッケージング用紙は、段ボール原紙を中心に東南アジア、東アジア向けが比7・4%減で10カ月連続のマイナス。印刷・情報紙の国内出荷は、前年同月比1・9%増となり3カ月連続プラス。非塗工紙、情報用紙はマイナスも塗工紙はプラス。輸出は21・0%増で12カ月連続プラスとなった。パッケージング用紙は26・6%増で2カ月連続のプラス。グラフィック用紙は21・0%増で、12カ月連続のプラスである。パッケージング用紙は、ボール原紙、白板紙とも減少。

主要品種では、新聞用紙の国内出荷は、前年同月比7・9%増で5カ月連続のプラス。

輸出は、前年同月比24・8%増で2カ月連続のプラス。グラフィック用紙は、印刷・情報用紙とも減少した。パッケージング用紙は、包装用紙、段ボール原紙、白板紙の国内出荷は前年同月比11・7%増で13カ月連続のプラスとなった。衛生用紙の国内出荷は、前年同月比7・9%増で5カ月連続のプラス。